

地域・通学路見守りボランティアアンケートの結果について

令和元年8月21日

県、県教育委員会及び県警察では、他県において、登校中の児童等が殺傷された大変痛ましい事件が発生したことを受け、子どもの安全確保、見守り活動に関する課題等を把握するため、学校支援ボランティア、防犯ボランティアを対象にアンケート（抽出調査）を実施しました。

目 次

1 調査概要	1
2 調査結果	2
（1）ボランティア活動の現状等	2
①組織	2
②活動内容	2
③活動日数	2
④不審者や地域の犯罪発生状況等の情報の入手方法	3
⑤見守り活動する上での連携状況	3
（2）子どもの安全確保、見守り活動に関する課題	4
①地域で不安を感じる場所	4
②活動を行う上での課題	4
③危険・危害等を感じた経験	5
（3）子どもの安全確保、見守り活動に関する要望	5
①活動を行う上で、必要だと思う取組	5
②活動を行う上で、貸出・支給してほしい物品	6
③活動強化するにあたり、不審者や地域の犯罪発生状況等の情報入手方法への希望	6
④活動強化するにあたり、今後、連携を希望する団体等	6

1 調査概要

（1）実施方法

- ア 期間：令和元年7月12日(金)から7月31日(水)
- イ 調査対象：通学路の見守り活動を行っている学校支援ボランティア・防犯ボランティア
- ウ 募集方法：郵送

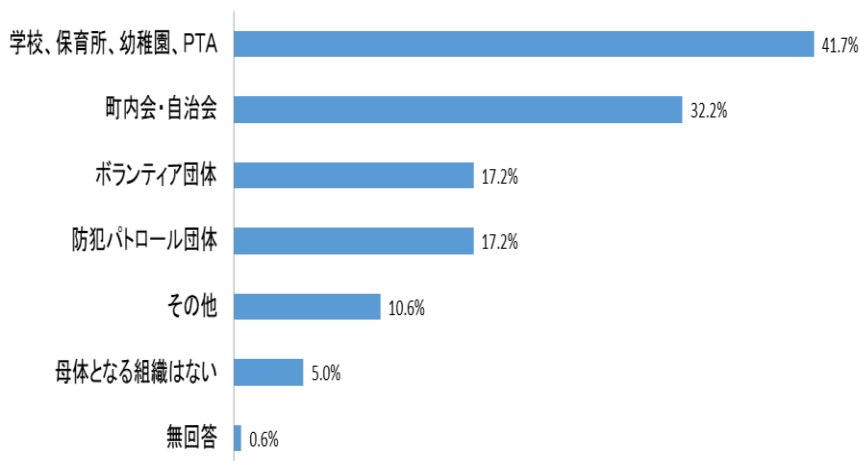
（2）回答数・回答者属性

項目	結果内容
回答数	360人／750人（抽出調査） 回答率：48.0%
性別	男性：6割、女性：4割
年代	30代～50代：2割、60代：4割、70歳以上：4割
活動地域	東部：5割、中部：2割、西部：3割

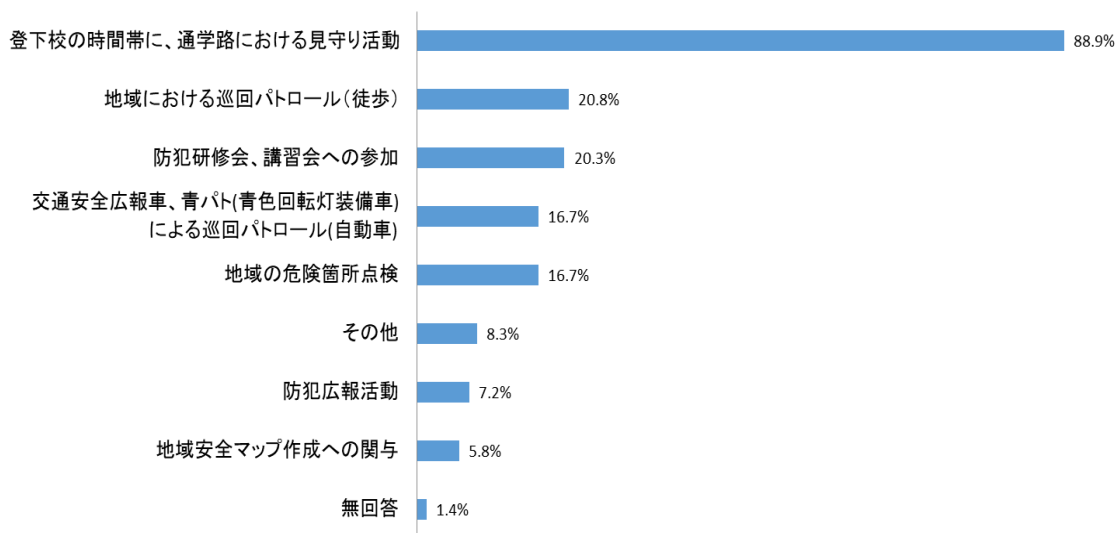
2 調査結果

(1) ボランティア活動の現状等

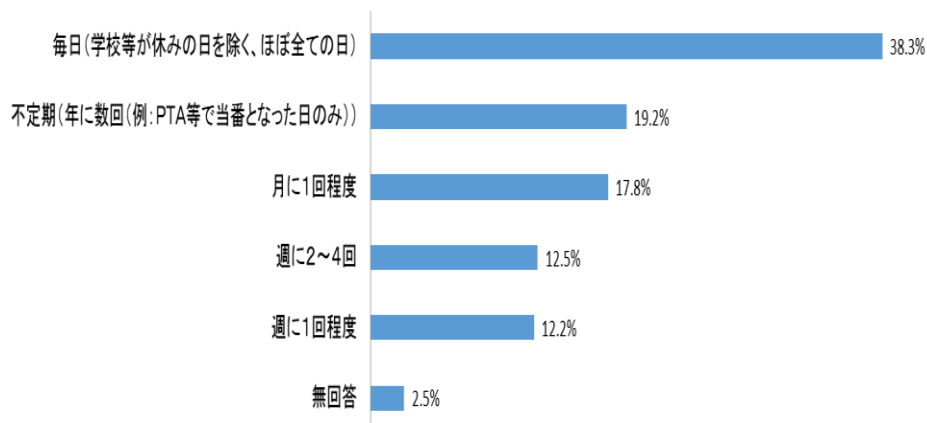
①組織：「学校・保育所・幼稚園・PTA」(41.7%)が最も多く、「町内会・自治会」(32.2%)、次いで「ボランティア団体」(17.2%)、「防犯パトロール団体」(17.2%)が並んで多い。



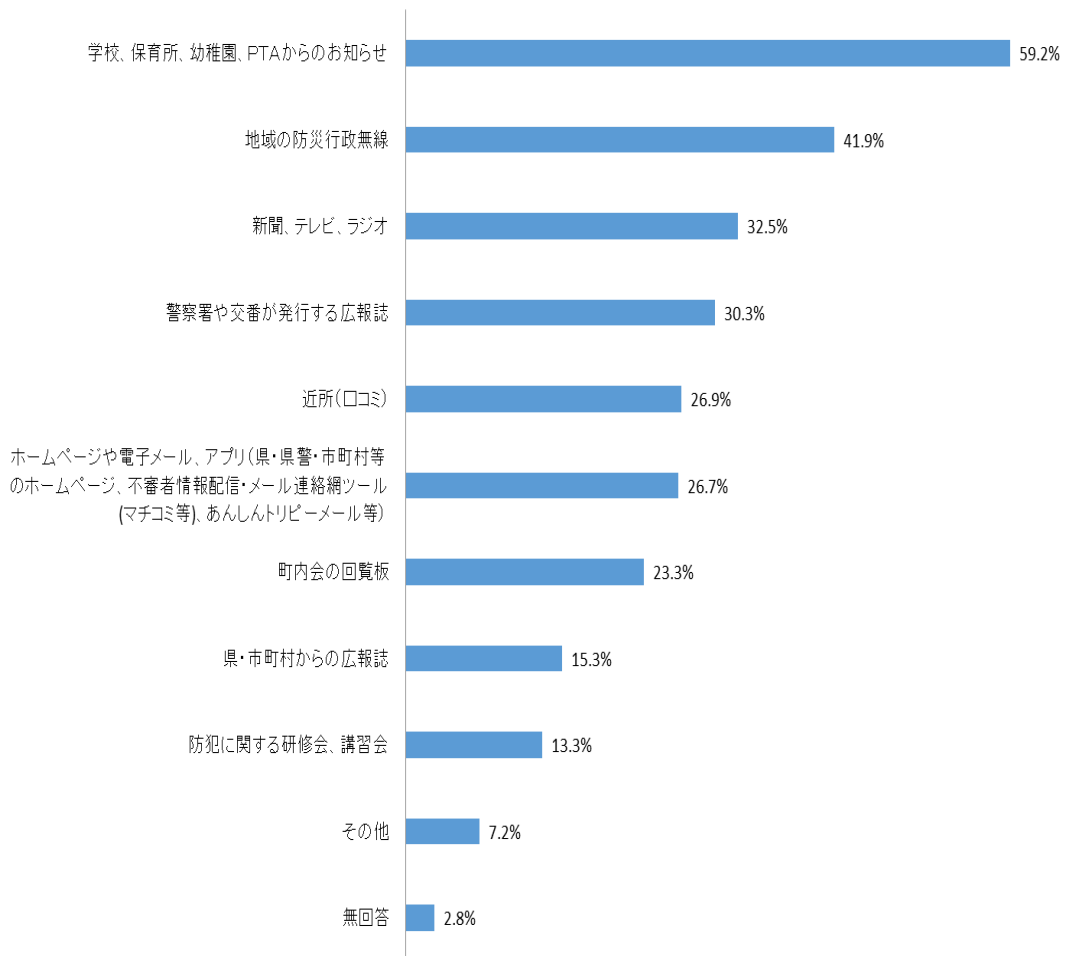
②活動内容：「通学路における見守り活動を行っている方」が約9割(88.9%)で最も多い中、「地域における巡回パトロール(徒歩)」(20.8%)、「防犯研修会、講習会への参加」(20.3%)が並んで多く、次いで「交通安全広報車、青パト(青色回転灯装備車)による巡回パトロール(自動車)」(16.7%)、「地域の危険箇所点検」(16.7%)を行っている方が多い。



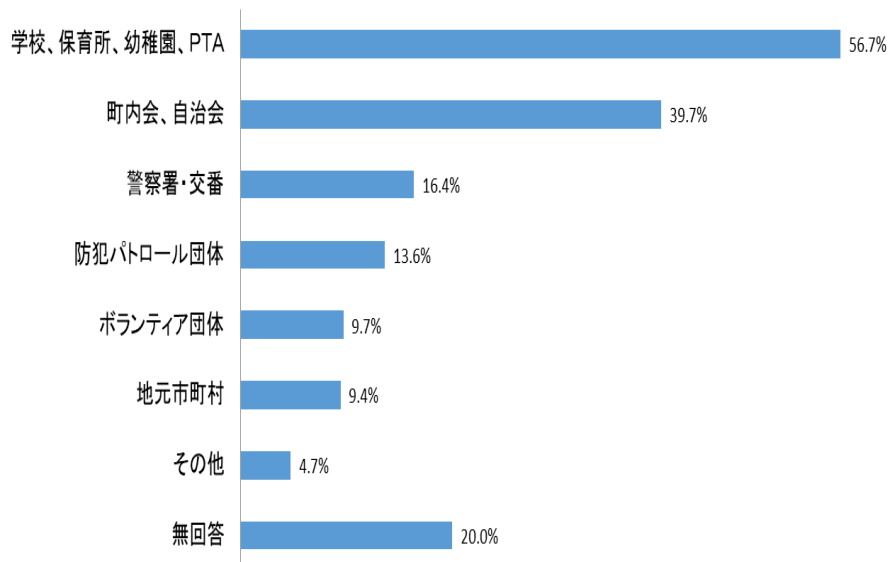
③活動日数：月に1回以上が約8割(80.8%)あり、うち毎日(38.3%)が最も多く、次いで月に1回程度(17.8%)の順に多い。



④不審者や地域の犯罪発生状況等の情報の入手方法：「学校・保育所・幼稚園・PTAからのお知らせ」が約6割(59.2%)で最も多く、次いで「地域の防災行政無線」(41.9%)、「新聞・テレビ・ラジオ」(32.5%)、「警察署や交番が発行する広報誌」(30.3%)の順で多くなっている。また、「防犯に関する研修会・講習会」(13.3%)が最も少ない状況である。

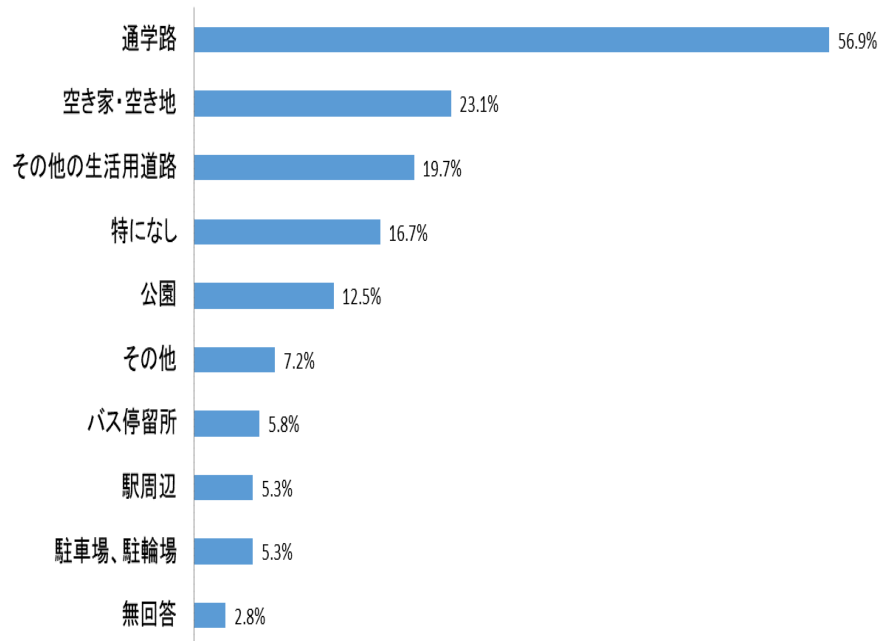


⑤見守り活動する上での連携状況：「学校・保育所・幼稚園・PTA」(56.7%)、「町内会・自治会」(39.7%)、「警察署・交番」(16.4%)の順で連携して活動している方が多く、「ボランティア団体」(9.7%)、「地元市町村」(9.4%)との連携が少ない状況である。

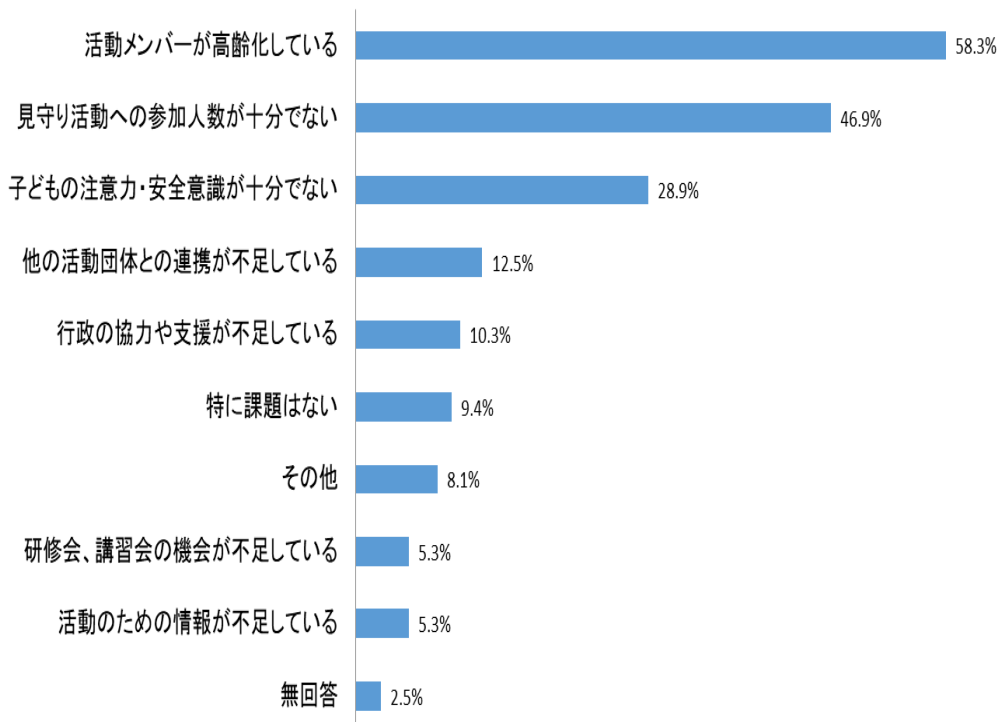


(2) 子どもの安全確保、見守り活動に関する課題

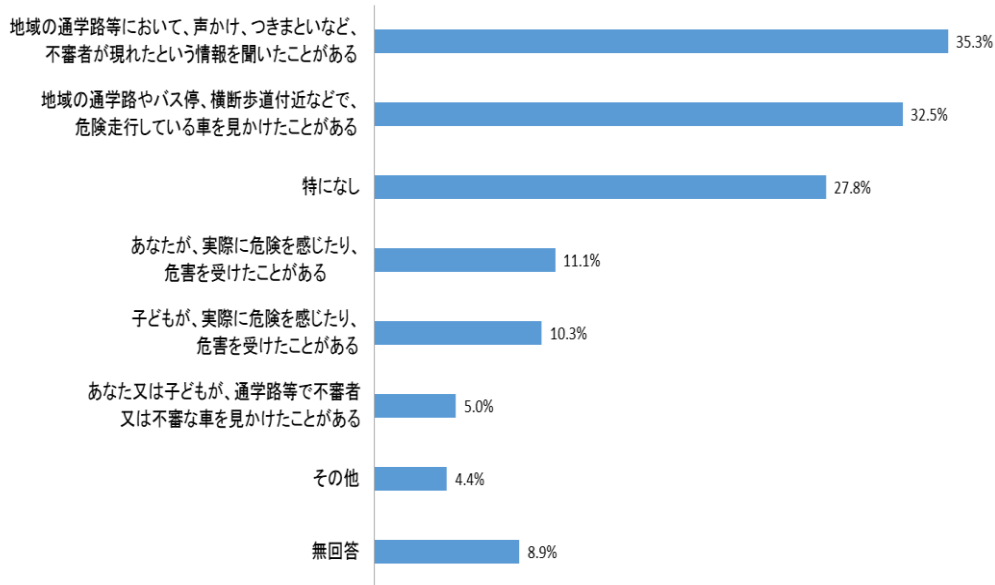
①地域で不安を感じる場所：「通学路」が約6割(56.9%)と最も多く、次いで、「空き家・空き地」(23.1%)、「その他の生活用道路」(19.7%)の順に多く、道路上が不安と感じている方が多い(76.6%)。また、「駅周辺」(5.3%)、「駐車場・駐輪場」(5.3%)は不安と感じている方は少なく、「特に不安を感じる場所なし」は16.7%である。



②活動を行う上での課題：「活動メンバーが高齢化している」(58.3%)が最も多く、「見守り活動への参加人数が十分でない」(46.9%)、「子どもの注意力・安全意識が十分でない」(28.9%)、「他の活動団体との連携が不足している」(12.5%)の順に多く、課題として認識されている。また、「特に課題はない」は9.4%である。

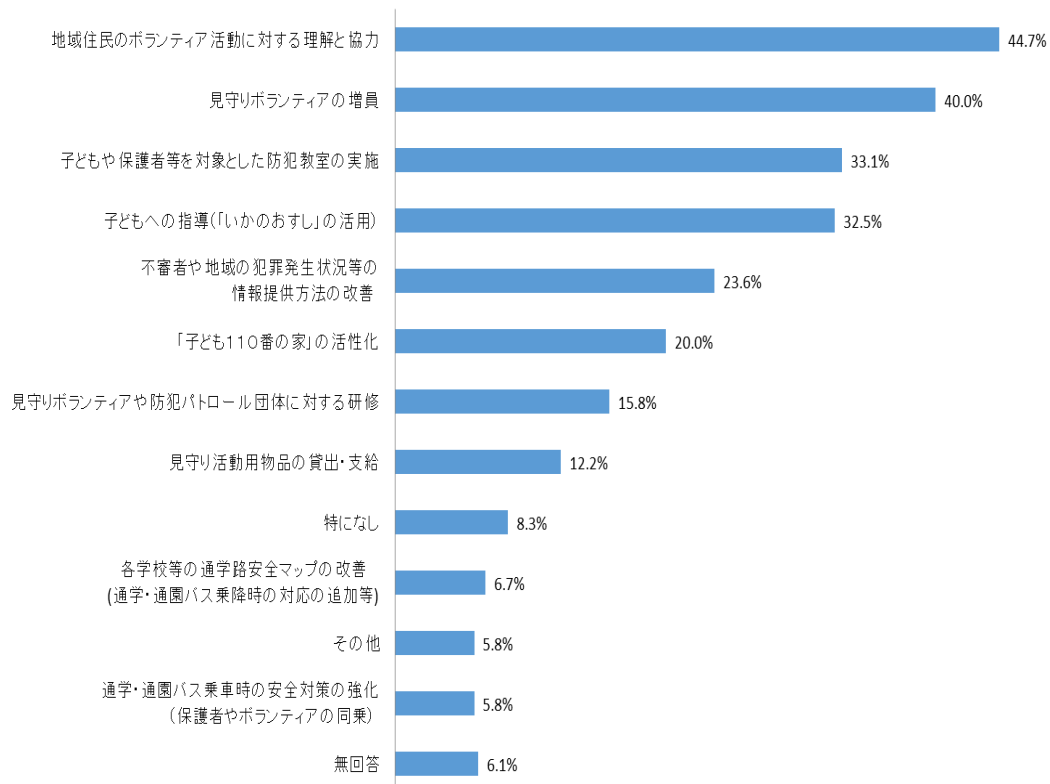


③危険・危害等を感じた経験：「地域の通学路等において声かけ、つきまといなど、不審者が現れたという情報を聞いたことがある」(35.3%)、「地域の通学路やバス停、横断歩道付近などで、危険走行している車を見かけたことがある」(32.5%)が並んで多い。また、「活動者自身が危険を感じたり、危害を受けた経験がある」(11.1%)、「子どもが実際に危険を感じたり、危害を受けたことがある」(10.3%)である。なお、「特に危険・危害等を感じた経験なし」の方は27.8%という状況である。

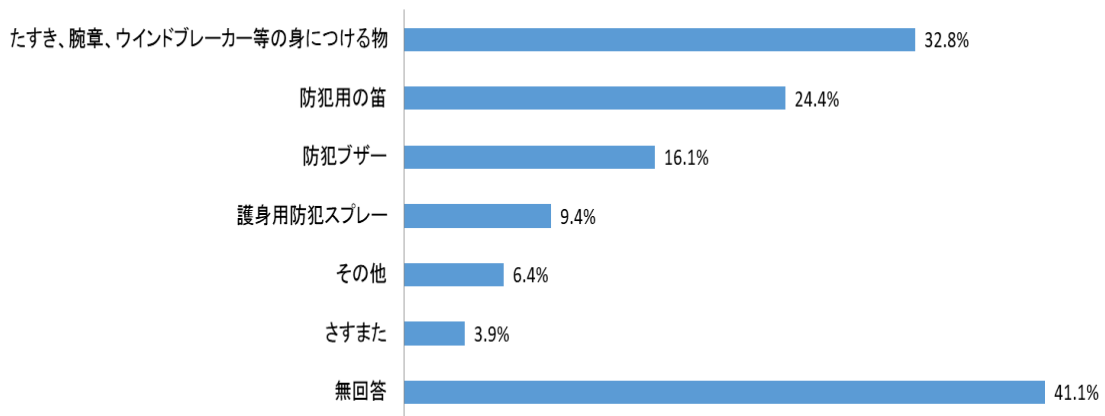


(3) 子どもの安全確保、見守り活動に関する要望

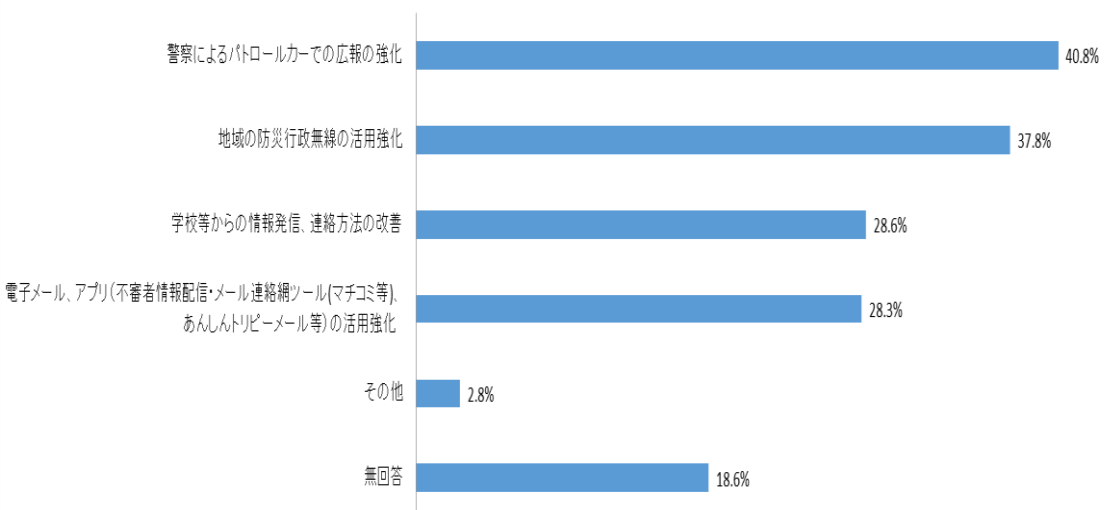
①活動を行う上で、必要だと思う取組：「地域住民のボランティア活動に対する理解と協力」(44.7%)が最も多く、次いで「見守りボランティアの増員」(40.0%)、「子どもや保護者等を対象とした防犯教室の実施」(33.1%)、「子どもへの指導(「いかのおすし」の活用)」(32.5%)の順に多く、子ども、大人への指導、普及啓発への要望が多い。



②活動を行う上で、貸出・支給してほしい物品：「たすき、腕章、ウインドブレイカー等の身につける物」(32.8%)が最も多く、次いで「防犯用の笛」(24.4%)、「防犯ブザー」(16.1%)、の順に多い。



③活動強化するにあたり、不審者や地域の犯罪発生状況等の情報入手方法への希望：「警察によるパトロールカーでの広報の強化」(40.8%)が最も多く、次いで「地域の防災行政無線の活用強化」(37.8%)、「学校等からの情報発信、連絡方法の改善」(28.6%)、「電子メール、アプリ(不審者情報発信・メール連絡網ツール(マチコミ等)、あんしんトリピーメール等)の活用強化」(28.3%)の順に多い。



④活動強化するにあたり、今後、連携を希望する団体等：今後さらに「学校・保育所・幼稚園・PTA」(42.5%)との連携希望が最も多く、次いで「警察署・交番」(41.7%)、「町内会・自治会」(38.9%)の順で希望が多い。

